



# 地域を再生、第6次産業を創出する 「多々良邑」プロジェクト

株式会社多々良造園（山口県山口市）



本事業は、(株)多々良造園の経営者一家の所有する遊休不動産等を有効活用し、蓄積してきた建設・造園・農業の専門技術を生かして、農園、農産物加工場、岩盤浴・和カフェ・温泉、物販などを総合した「多々良邑」施設を建設し、「第6次産業」(1次産業×2次産業×3次産業)を展開するものである。



## 1. 事業の背景と動機

### 技術と土地を活かして自然食・健康志向分野へ

民間・公共工事ともに先細り感は否めず、将来を見通した新分野への進出が必要となった。新規事業では、(株)多々良造園が保有する技術や経験、土地等の「強み」を生かした経営戦略構築と事業展開が不可欠である。そこで自然食・健康志向で成功を収めている新事業を参考に、ゼロエミッションの第6次産業(第1次×第2次×第3次)を実現する諸施設を一家の敷地内に建設することとした。



「多々良邑」の施設イメージ。  
全体の構想は概ねできている

## 2. 進出時の苦勞やその対応

### 女性客のニーズの把握が必要

造園業を営んでいるので、庭園や関連施設には通じている。また、「すずらん湯」等の類似施設の建設に従事した経験もあり、デザインや必要な機能、訪問客のニーズもある程度把握している。高級富裕層に属する女性客を主なユーザーと想定しているが、ターゲット層・商圏等をさらに詳しく調査する必要がある。

## 3. 新事業の概要

### 心により食事と心と体の癒しの場を提供

農産物を生産(1次産業:農園・モデル庭園)し、それらを加工製造(2次産業:食品・竹炭等)、その製品を販売や飲食サービス・健康志向サービス(3次産業:飲食・石風呂)を通して提供する人・環境・社会に優しいをモットーに地域再生事業として取り組むものである。



地元地域初の複合施設として地域の活性化を図りたいと語る多々良社長(左)とプロジェクト責任者の相澤氏

#### 4. 事業の推進体制

### 5 社の外部コンサルティング会社と連携

事業推進にあっては、多々良社長自らが発案して、先頭に立って行っている。特に専門組織は置いていないが、社員の相澤氏が専属の形でサポート。相澤氏はかつて、大型店に勤務していた経験があり、接客や物販などに詳しい。また、懇意にしている外部のコンサルティング会社数社と連携し、企画、マーケティング等依頼している。

さらに、建設予定の飲食店「柿麻呂」は類似店を経営している人との共同経営にする予定である。

多々良邑有限責任組合(仮称)には、施設の広報・レストランの運営、イベントの企画等を業務委託する予定である。



当モデル事業の物販部門の1つである竹炭製造工場

#### 5. 差別化戦略・競争戦略

### 庭園・食・健康をトータルにカバーして差別化

近辺に似たような施設がないのが強みの一つ。ここには湯田温泉があり、個々の施設をみれば似たような店や施設はあるかもしれないが、「多々良邑」のように庭園、食、健康をトータルにカバーしたような施設はない。いわば、地元湯田と共存共栄の戦略でもある。



本社敷地内の施設建設予定地。本社隣接部分はバラ園の予定

#### 6. 成果と今後の課題

### 事業規模と建設費用のバランスの見直し

数回にわたるマーケットリサーチにおいては、消費者及び金融機関とも好感触を得ているが、投資回収サイクルをより短縮するために全体の規模を再度見直している段階である。

施設については、自然食志向、健康志向をトータルに感じられる総合的な施設の企画と建設がポイントである。

運営段階の課題は、評判を聞いて、口コミで来る客とリピーターをいかに定着させるかということである。

以上のことから、開業は平成20年を予定している。

#### 事業者 PROFILE



株式会社多々良造園

代表者: 多々良 健司(代表取締役)

所在地: 山口県山口市

資本金: 2,000万円

従業員数: 12名

事業内容: 昭和30年創業、造園業・建設業

などを主体とする。本業の造園業では、県内だけでなく海外でも日本庭園を造成するなど幅広く活躍している。

URL <http://www.tatarazouen.com/>